



## 4. わくわくロード ビジョン・コンセプト

## 4. わくわくロード ビジョン

**広い空、歩きたくなる自慢の町。  
小さなはじまりを形にできる、よりみちしたくなる町。  
宮代町**

地域の皆様で想像したわくわくロードを中心とした東武動物公園駅西口周辺エリアの全体像です。地域の皆様がいきいきと、ゆるやかにつながりあいながら、自分たちが住む町に誇りや愛をもって暮らす姿。そんな人々の活動が道路ににじみ出し、より大きくひろがって宮代町全体に広がっていく……

地域のみなさんの暮らしやつながりがにじみだす豊かな町を、わくわくロード（公園のようなコミュニティ道路）を通じて作っていきます。



西口エリア将来イメージ

### 公園のようなコミュニティ道路

道路空間を活用し、にぎわいや憩いの空間の創出をめざし、休憩施設を設置するといった取組は、アメリカをはじめとした都市で行われています。

実はこのような活用は、江戸時代の時代劇のワンシーンに出てくる景色を想像すればわかりやすいと思います。

道路空間に露店や茶屋が立ち並び、道路と宅地の境界があいまいで、生活の中心は屋外にあり、人が集まり、コミュニティが生まれ、にぎわいにあふれていました。

そんな道路空間を現代に再現させるには、道路空間に公園の要素を取り入れては？

単なる道路空間に公園の要素を取り入れ、歩道に休憩スペースなどを設けることで、人々が自然と集まる居場所となります。これによって、コミュニティの結束力や交流が促進され、活動が道路ににじみだします。

また、歩きやすさだけでなく、回遊性向上の仕掛けを取り入れることで、歩行での移動を促進し、市民の健康促進効果にもつながります。

緑地をランダムに配置することで、みやしろらしい自然の要素を取り入れた道路空間となり、地域の特色がある芸術性の高さや、地元の歴史や伝統を取り入れた物を設置することで、道路が地域のアイデンティティを表現し、市民の誇りを高める効果も期待できます。



## 5. まちづくり提案

## 5. まちづくり提案

※検討会メンバーにて作成した案

### 地域の方の“活動・暮らし・つながり”がにじみだす道

宮代町の魅力は自然豊かで誇りある建物がある他に“地域の人々の魅力を引き出す”ことにあると考えています。道路は人や車が目的をもって移動するための大切な公共空間であると同時に、道路を通じて周辺環境や人々のつながりを創り出すことのできる空間でもあります。

現状の駅前通り線は、商店街に沿って一直線の歩行空間を持ち、街路樹や花壇が寄り添って存在しています。

この通りに隣接した店舗や住民は、道路を活動の場として活用できていない状況です。

この通りを、車中心から人中心の「公園のようなコミュニティ道路」に整備することで、人々が、日常的に利用しやすくなり、歩道での過ごし方も変わってきます。



#### 日常

散歩の休憩として過ごせるベンチ、子供達は広場で遊び。大人はコーヒーを飲みながら木陰でくつろぐ姿など。

## イベント時

広がった歩行者空間を活用した小規模なイベントから、地域の方々がつながり、通り全体を使った大規模なイベントの企画など、宮代町がより豊かに、暮らしに寄り添った変化が生まれます。



住民にとって、西口エリアが平日も休日も便利で楽しい場になることで、地元で過ごす時間が増え、商店街の活性につながり、継続的に雇用を生むことが可能となります。

大学生にとっても、学生時代に過ごした町に愛着をもち、将来過ごす場所の候補のひとつになります。

## 柔らかいカーブとあいまいな境界

車道は宮代町の風景にある柔らかいカーブを描き、歩道と広場の間には明確な区切りのないあいまいな境界をつくります。

この考えは、宮代町のシンボルである進修館を設計した象設計集団の考えから由来します。柔らかいカーブは車の流れをゆるやかに抑えることにもつながり、あいまいな境界は人々の活動が町に広がっていく様を想像させます。これらを作り出す事で宮代町らしい風土、風景をつなげていくことができるのではないかと考えました。

## 歩道空間の拡張について

現在、県道春日部久喜線から商工会までの道路幅は 18mであり、車道幅員は 10m、歩道幅員は片側 4mあります。

この区間の歩道部分を、最低 4m確保した上で、最大 7mまで広げた部分と共存させると、図のように、道路空間にうねりが出て存在することになります。

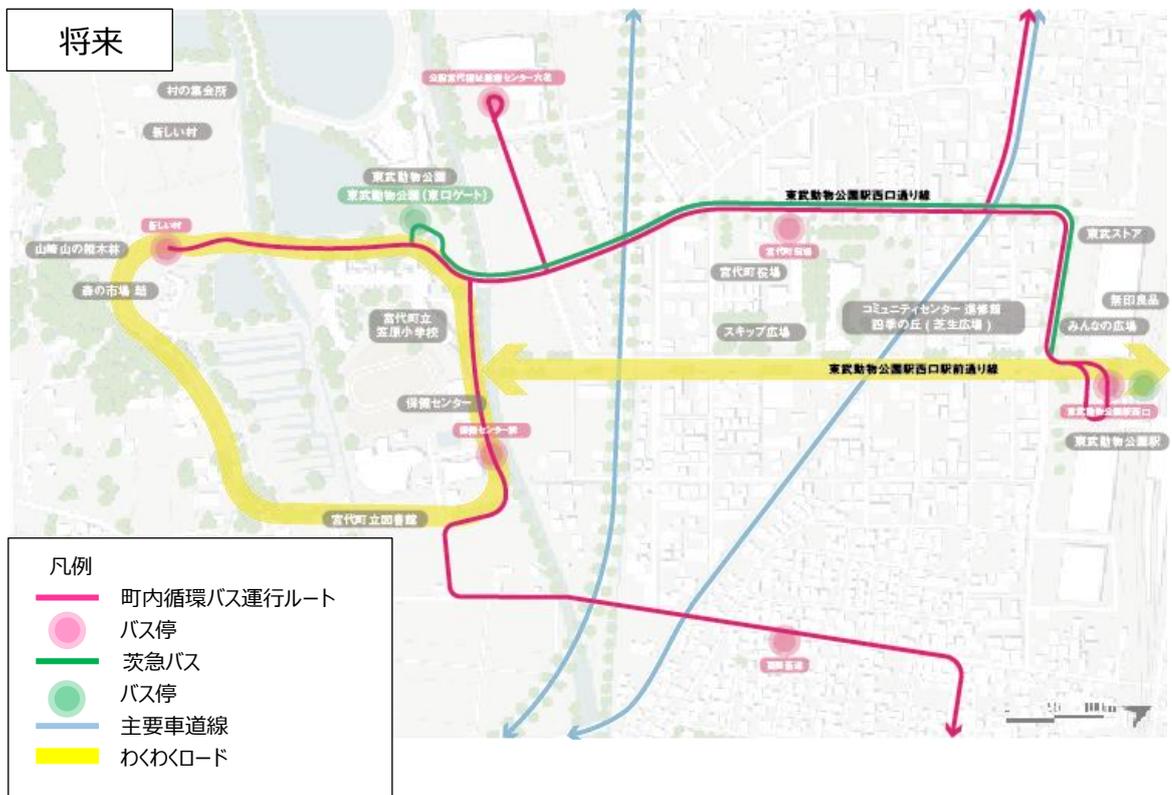
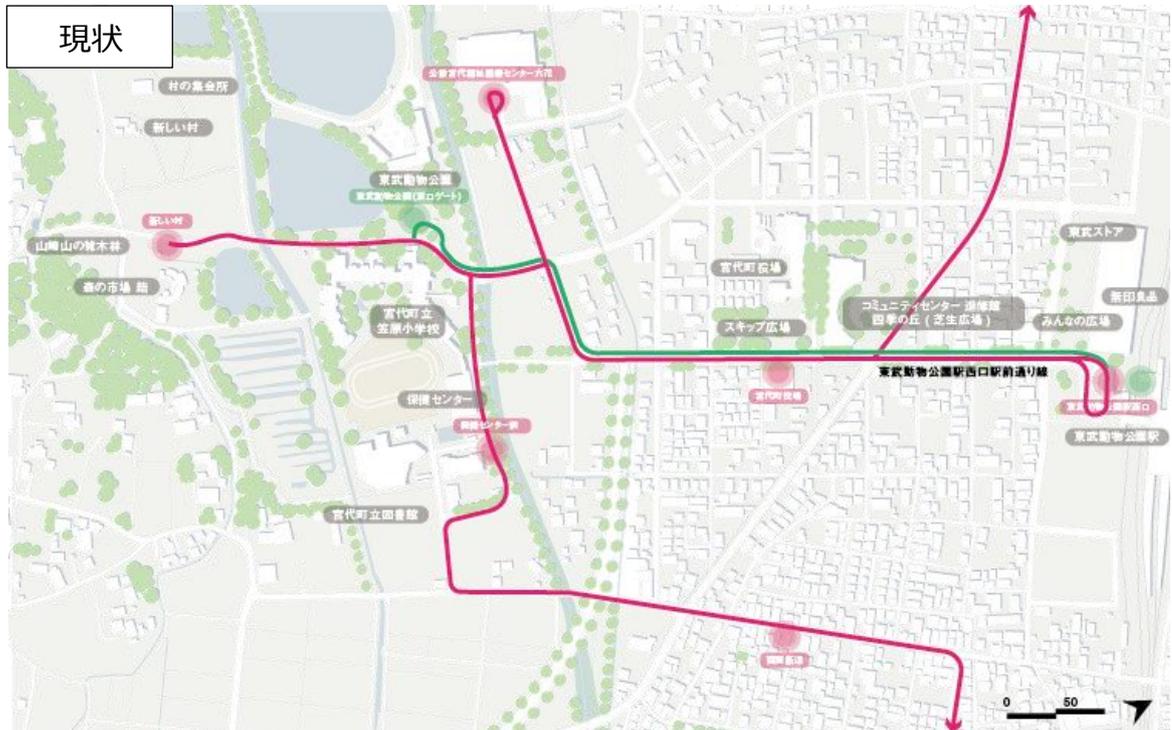
歩行空間を優先とし、車のスピードを抑えた変化のある道路へと変えることができます。



## 「車道」と「歩道」

バスの運行など、日常的に頻繁に活用する車道を都市計画道路東武動物公園駅西口通り線に変更することで、より駅前通り線を歩道空間として使いやすい状態を目指します。

そうすることで、大規模なイベント時には、西口駅前通り線の一部を歩行者天国とすることもできそうです。





## 6. これからの動き

## 6. 実現に向けて

### 1. 市民参加によるコンセプトの決定

令和4年度は、地域住民や地域事業者といった市民参加によってアイデアを出し合い、エリアの回遊性を意識したスタンプラリーや新たなモビリティ、公共空間の居場所づくりやパークレットといった社会実験を行ってきました。

東武動物公園駅西口周辺エリアで回遊性を持たせるためには、駅から新しい村までの各エリアの特性や機能を明確にし、単なる公共空間から誰もが居心地の良い居場所とし、各エリアをわくわくするような道路でゆるやかにつなげ、人々が回遊したくなる仕掛けが必要であることを確認しました。

また、現状の西口駅前通り線を、歩道が広い人中心の道路にするには、車のスピードを抑える工夫も必要なため、道路の幅員を変化させる実験を行い、その安全性を確認しました。

これらの結果を基に、東武動物公園駅西口周辺エリアの基本構想をまとめ、わくわくロードの整備イメージを「公園のようなコミュニティ道路」と決定しました。

### 2. 概略設計・整備エリア決定～実施設計

今回まとめてきた基本構想については、西口周辺エリアの価値向上のため、さまざまな分野で活躍している市民の皆様からアイデアを出し合ってもらい、長期的な視点での将来構想として取りまとめさせていただきました。

その理由として、今回のエリア内に近年のゲリラ豪雨などによって、冠水被害が発生するエリアが存在するため、姫宮落し川の改修が終わらない状況で大規模な道路整備を行っても冠水する恐れがあるため、手戻りなどの無駄がなく、効果的な整備を行う必要があります。

このようなことから、第5次総合計画の前期実行計画期間内については、それぞれが点で行なっている市民活動を線にすべく、キープレイヤー同士の連携や連動を意識しながら検討を行い、その結果からハード整備を行う優先順位や箇所を決定し、具体的な意匠や設備などの検討を進めます。

### 3. わくわくロード整備工事

整備工事は業者に一括して発注するだけでなく、市民参加によるワークショップ（例えば平板づくりなど）を取り入れることで、整備後も市民が愛着を持ち市民に使われる施設を整備します。

また、西口周辺エリアで行われる市民活動が日常の風景として馴染むことで、エリアをつなげる道路にも活動がにじみ出し、日常的に使われることで、ゆるやかなつながりのある風景が生まれ、歩きたくなるまちに育っていくことを期待します。

東武動物公園駅西口わくわくロード事業 スケジュール

実施項目	実施主体	実施年度（いつまでに）					
		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
1.市民参加による コンセプトの決定	まちづくり建設課		↑				
2.概略設計・ 整備エリア決定	まちづくり建設課		↑				
3.関係機関協議	まちづくり建設課		↑	↑			
4.実施設計	まちづくり建設課			↑	↑		
5.わくわくロード 整備工事	まちづくり建設課					↑	↑

## 実現に向けた5つの柱

### 『資源を守る』

進修館や笠原小学校といった特徴的な建築物や、新しい村や山崎山といった豊かな自然は町の大切な資源です。これらの資源は町の魅力として、町民だけでなく、来訪者にも発信し、未来につむいでいく必要があります。町ではこのような魅力的な資源を守り、資源を活かしたまちづくりを推進します。



### 『市民活動を推進』

少子・高齢化や人口減少だけでなく、これまで予測もできなかったような社会変化に対応するためには、行政が町民を組織するのではなく、町民が自らの意思によって市民活動や地域活動を行うことがこれからのまちづくりに求められています。町では市民参加による社会実験の中で、町民が地域課題や将来に興味を持ち、実践を繰り返すことで、新たな市民活動が生まれるきっかけつくとともに市民活動を推進します。



### 『関係人口を増やす』

宮代町の人口はおよそ3万4千人の小さな町であり、定住人口促進のための事業を進めていますが、過去に整備された市街地では少子・高齢化が進み、地域づくりの担い手不足が課題となっています。町では観光客（交流人口）よりも地域に関わりを持ち、移住（定住人口）には至っていないが、地域に変化を生み出す人材（関係人口）を増やすことで、地域の活性化を推進します。



### 『地域内経済循環を推進』

消費動向調査によって、住民の半数以上が町外で買物や飲食をしているという動向が見受けられます。小さな町が地域の活性化や人口減少といった社会問題を乗り越えるためには、町外での消費を控え、町内での消費に置き換える必要があります。町では地域密着型の顔が見える地域経済へと住民の意識を変え、地域内で循環する経済づくりを推進します。



### 『歩きたくなるまちなかを創出』

国では、単なる公共空間から人々が集い、憩い多様な活動が繰り広げられる場へと変え、地域消費や投資の拡大、観光客の増加や健康寿命の延伸、孤独・孤立の防止のほか、多様な地域課題の解決や新たな価値の創造につながるウォーカブル政策を推進しています。町では令和2年10月からウォーカブル推進都市として宣言し、町の資源を回遊し、誰もが居心地が良く歩きたくなるまちなかを創出します。



これからは、西口周辺エリアの中から整備エリアの絞り込みを行い、実現に向けた5本の柱を念頭に置き、地域の皆様とともにやってきたワークショップや社会実験の成果を活かし、活性化に向けたソフト事業や、わくわくしながら歩きたくなるまちなかを目指したハード事業を進めていきます。



## 參考資料

## パークレット事例

### ①康生通り

#### 所在地

愛知県岡崎市康生通東

#### 概要

乙川リバーフロント地区内の豊富な公共空間を活用した公民連携プロジェクトを実施することにより、QURUWAの回遊を実現させ、波及効果として、まちの活性化（暮らしの質の向上・エリアの価値向上）を図るQURUWA戦略に道路再構築事業として位置付けられている。2018年度から道路空間の利活用に関する社会実験を実施している。



軒先スペースの活用とともに、2018年は民間駐車場を共同駐車場として活用し、2019年は車道を占用しパークレットを設置した。2020年は歩道に休憩スペースを設置し、2021年からその常設化を目指している。

#### 引用元

国土交通省ホームページ

[https://www.mlit.go.jp/toshi/walkable/pdf/06aichi\\_kosei\\_sn.pdf](https://www.mlit.go.jp/toshi/walkable/pdf/06aichi_kosei_sn.pdf)

## ②神戸市道三宮中央通り線

### 所在地

神戸市中央区三宮町 1 丁目 3 番 9 地先  
～3 丁目 1 番 18 地先



### 概要

三宮中央通りは、道路の占用許可基準を緩和し、通りに賑わいを生むことを目的とした「歩行者利便増進道路（以下、通称：ほこみち）指定制度」の全国初の指定地域です。街中での新しい試みを実証する受け皿として、通りで様々な活動を行っています。



KOBE パークレットは、都心の新たな憩いや賑わいの創出を目的として設置しており、来街者が誰でも自由に利用できます。歩くことが楽しくなるような魅力的な道路を『道路のリデザイン』。車道の一部である停車帯を利用した KOBE パークレットが誕生しました。民学官の連携により、快適な日常空間を維持・まちと調和したデザイン・移設できる構造として設置しており、さらに壁面広告による持続可能なスキームを形成し、企業協賛をまちづくり活動に活用しています。

### 引用元

国土交通省ホームページ

[https://www.mlit.go.jp/report/press/road01\\_hh\\_001413.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_001413.html)

三宮中央通りまちづくり協議会ホームページ

<https://www.sannomiya-chuo.com/business#parklet>

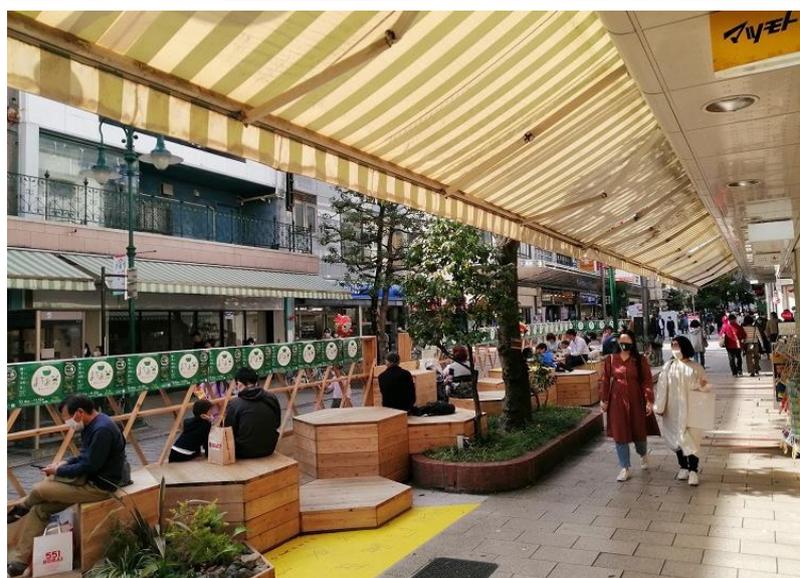
### ③ハニカムスクエア

#### 所在地

葵区呉服町 2 丁目 6-8 地先 (呉服町通り マツモトキヨシ前)  
葵区七間町 1-6 地先 (七間町通り 静岡伊勢丹前)

#### 概要

2020 年 3 月末、静岡市内中心部にあった路上パーキングがすべて廃止されました。  
歩いて楽しい街を目指す静岡市では、この空間を県内初の取り組みとして、令和 2 年 9 月 25 日より呉服町通り、七間町通りにパークレットが設置されました。



※ハニカムスクエアとは、静岡市版パークレットの愛称名です。  
ハニカムスクエア社会実験は令和 3 年 3 月末日までとされていましたが、以下の理由により  
今後も道路休憩施設として継続して設置されています。

1. 名店街の方々のご協力のもと、空間がきれいに保たれており、利用者やお店の方から継続を望む声をいただいている。
2. 新型コロナウイルスの感染拡大が不透明な中で、今後も屋外空間利用に対するニーズが高いことが想定される。
3. 開放的な屋外空間として休憩や飲食などたくさんの方にご利用いただいております。休憩する場所が欲しいという来街者のニーズに対応した施設であることが、今回実施しているアンケート調査結果より確認されている。
4. 交通事故等、ハニカムスクエアが設置されたことによる交通に関するトラブルが発生していない。

## 引用元

静岡市ホームページ

[https://www.city.shizuoka.lg.jp/485\\_000054.html](https://www.city.shizuoka.lg.jp/485_000054.html)

[https://www.city.shizuoka.lg.jp/485\\_000058.html](https://www.city.shizuoka.lg.jp/485_000058.html)

#### ④さかさ川通り

##### 所在地

東京都大田区蒲田

##### 概要

地域の回遊性を担うストリートとしての活性化が望まれており、地元からの提出されたデザイン案をふまえて、再構築を実施した。再構築の際に、歩車道の舗装の材質とパターンを統一しており、イベント時の使い勝手も考慮し、歩車道境界は最小限の段差としている。

(総幅員は変更せず車道を2車線から一方通行1車線とし、スラローム形状に再整備)

2015年に国家戦略道路占用事業に指定されて、年に数回季節に応じて嗜好を凝らしたイベントを実施している。



##### 引用元

国土交通省ホームページ

[https://www.mlit.go.jp/toshi/walkable/pdf/05tokyo\\_sakasagawa\\_sn.pdf](https://www.mlit.go.jp/toshi/walkable/pdf/05tokyo_sakasagawa_sn.pdf)

## ⑤神門通り

### 所在地

島根県出雲市大社町

### 概要

平成 25 年に行われた 60 年に一度の出雲大社御本殿の大遷宮。この一大行事に合わせる形で、「神門通り」を何とか 出雲大社の門前にふさわしい風格とにぎわいのある通りへ再生させたい。安心して楽しみながら歩ける道とするための道路幅員構成の見直しや、石畳舗装化、官民一体となった沿道の町並みの景観作り、にぎわい作りの取り組みを、地域をあげて進めている。



- 【再構築】総幅員は変更せずに、車道幅を縮小、歩行空間を拡大  
中央線を消去し、全面石畳とすることで自動車の速度低減を図る
- 【利活用】しまね版特区を活用しイベント等を実施

### 引用元

国土交通省ホームページ

[https://www.mlit.go.jp/toshi/walkable/pdf/01shimane\\_shinmon\\_sn.pdf](https://www.mlit.go.jp/toshi/walkable/pdf/01shimane_shinmon_sn.pdf)

## 検討会活動内容等

### ■ 検討会参加者

1	安島 美次さん	12	佐々木 誠さん	23	水谷 麻里子さん
2	安部 和花子さん	13	穴戸 ゆみさん	24	森本 幹太さん
3	伊藤 はるかさん	14	高師 啓佑さん	25	柳沢 純一さん
4	大木 了一さん	15	手島 亙さん	26	湯浅 彩子さん
5	小椋 圭人さん	16	中嶋 庸子さん	27	横川 剛士さん
6	亀山 佳史さん	17	中村 和基さん	28	渡辺 徹さん
7	川嶋 涼太さん	18	中村 幸絵さん		
8	菊地 純平さん	19	蛭田 秀人さん		
9	木村 哲也さん	20	蛭田 真由美さん		
10	木村 裕子さん	21	古谷 諭史さん		
11	小林 桂子さん	22	松本 大輝さん		

### ■ スケジュール

第1回	令和3年6月28日(火)	検討会チーム顔合わせ・仮テーマ決めとスケジュール設定
第2回	令和3年8月11日(木)	事例のインプット・具体的なアクションイメージを持つ
第3回	令和3年10月4日(火)	宮代町のビジョン共有(言語化) ビジョン実現に向けた具体的なアイデア出し
第4回	令和3年12月6日(火)	ビジョンの共有・アクションプランの設定
第5回	令和4年1月18日(水)	社会実験実行プラン検討・決定、実行に向けた タスク整理
第6回	令和4年2月21日(火)	社会実験の進捗共有および分科会

## ■第2回社会実験 わわわ！トウブコにおける検討会メンバー役割

### A チーム：スイスイポート、パタペタラリー

電動キックボード、デジタルスタンプラリー、路面標示シートの事業者選定。  
スタンプラリーのスポットの選定。

1 安島さん	5 中嶋さん
2 菊地さん	6 蛭田真由美さん
3 木村裕子さん	7 松本さん
4 佐々木さん	8 湯浅さん

### B チーム：もぐもぐピクニック

パレットの調達からパークレットのデザイン、サイン計画の検討。  
竹を使ったガードレールは伐採作業からデザイン、設置作業まで行った。

1 大木さん	7 中村和基さん
2 小椋さん	8 中村幸絵さん
3 川嶋さん	9 古谷さん
4 小林さん	10 横川さん
5 穴戸さん	11 渡辺さん
6 手島さん	

### 検討会メンバー以外の協力メンバー

主な作業内容	参加者
ストリートファニチャー制作・設営・撤収作業 パレット調達、パークレット設営作業 パークレットへの動物足跡書き込み 動物シルエット作成・設置、配線防水処理 路面標示シート貼付作業	菅井 陽斗さん
	柏倉 桃子さん
	川岸 野愛さん
	小暮 大雅さん
	小山 礼雅さん
	湯野川 慈恩さん
電動キックボード受付対応、ヒアリング調査	末木 孝一郎さん
	吉羽 流矢さん
	西村 昴星さん
デザイン制作（リーフレット、路面標示シート）	佐藤 貴希さん
	菊地 沙耶さん

### 協力事業者

事業者	事業者名
デジタルスタンプラリー運営会社	株式会社 RALLY
電動キックボード運営会社	株式会社 EXx
路面標示シート	サンコー企画株式会社